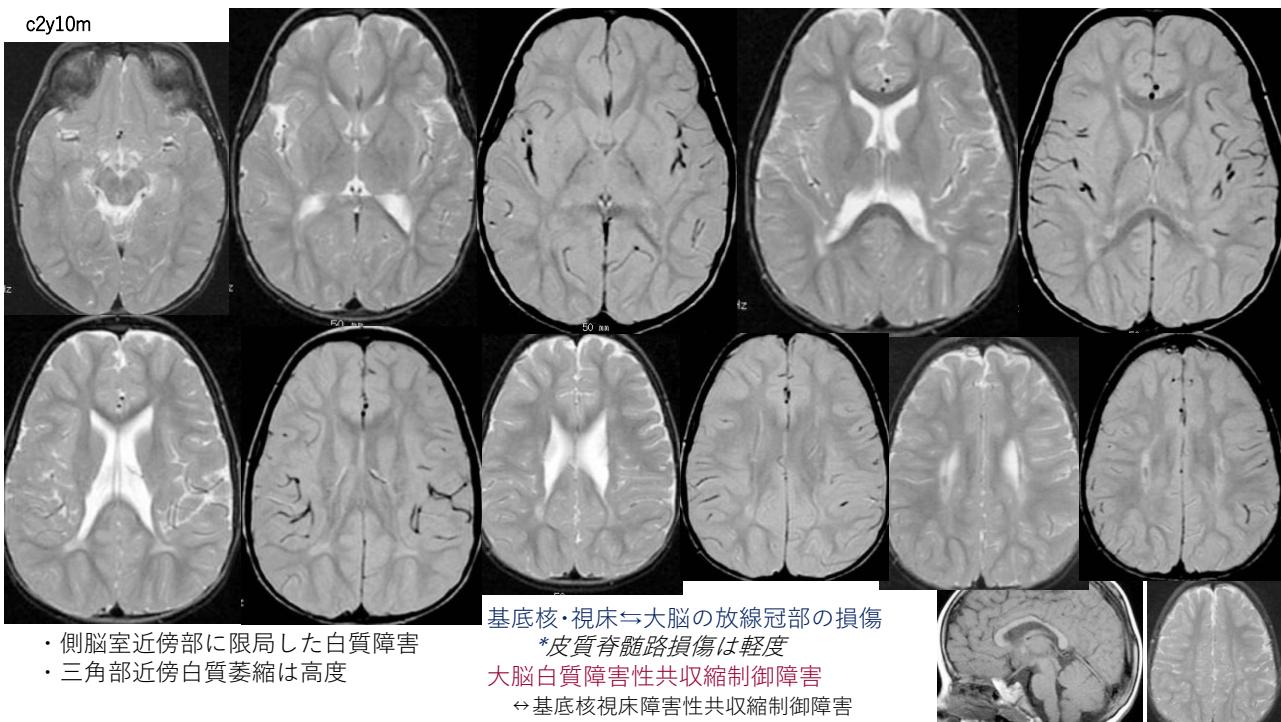


早産大脳白質性共収縮制御障害 -1-



1



- ・側脳室近傍部に限局した白質障害
- ・三角部近傍白質萎縮は高度

2

1

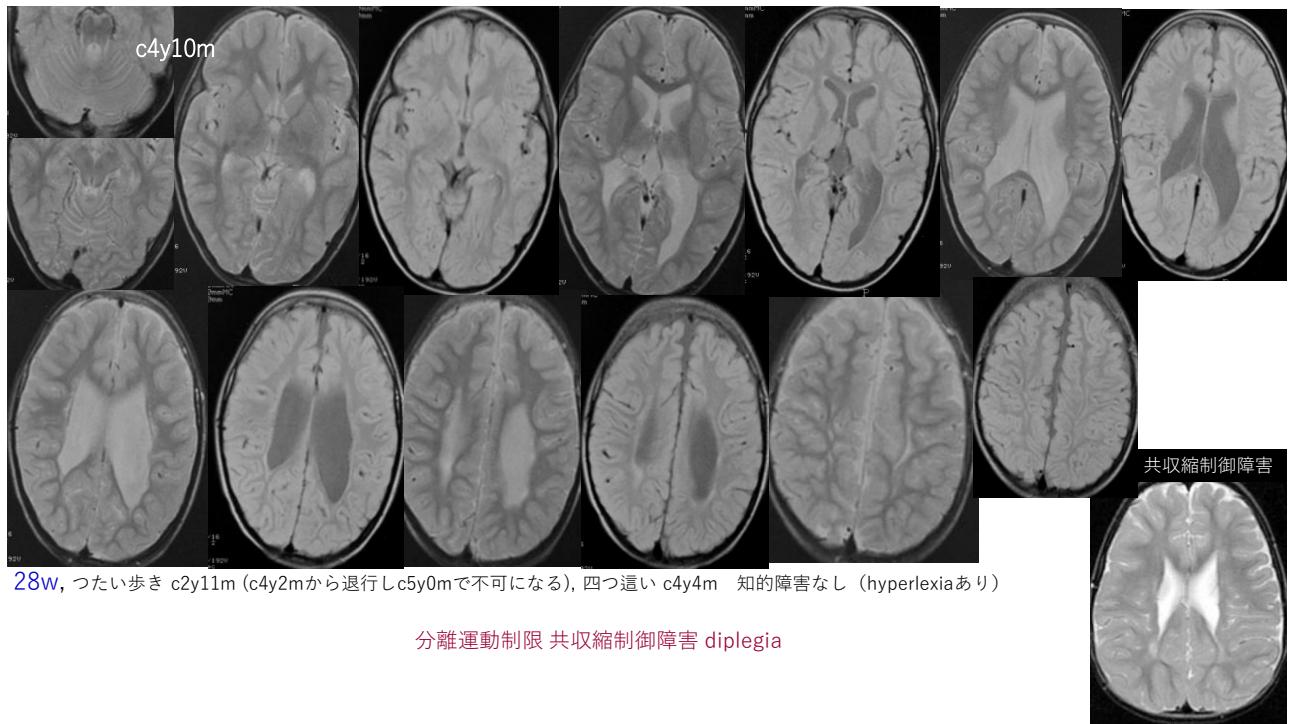


3



4

2

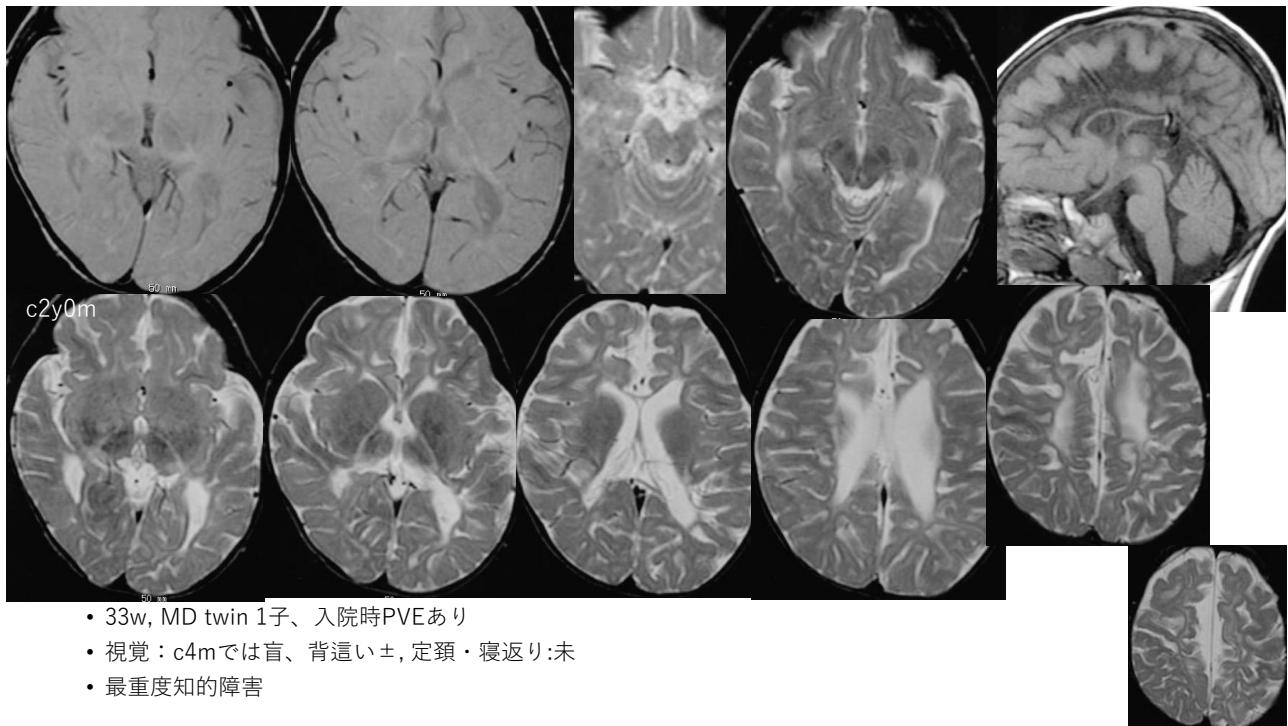


5



6

3

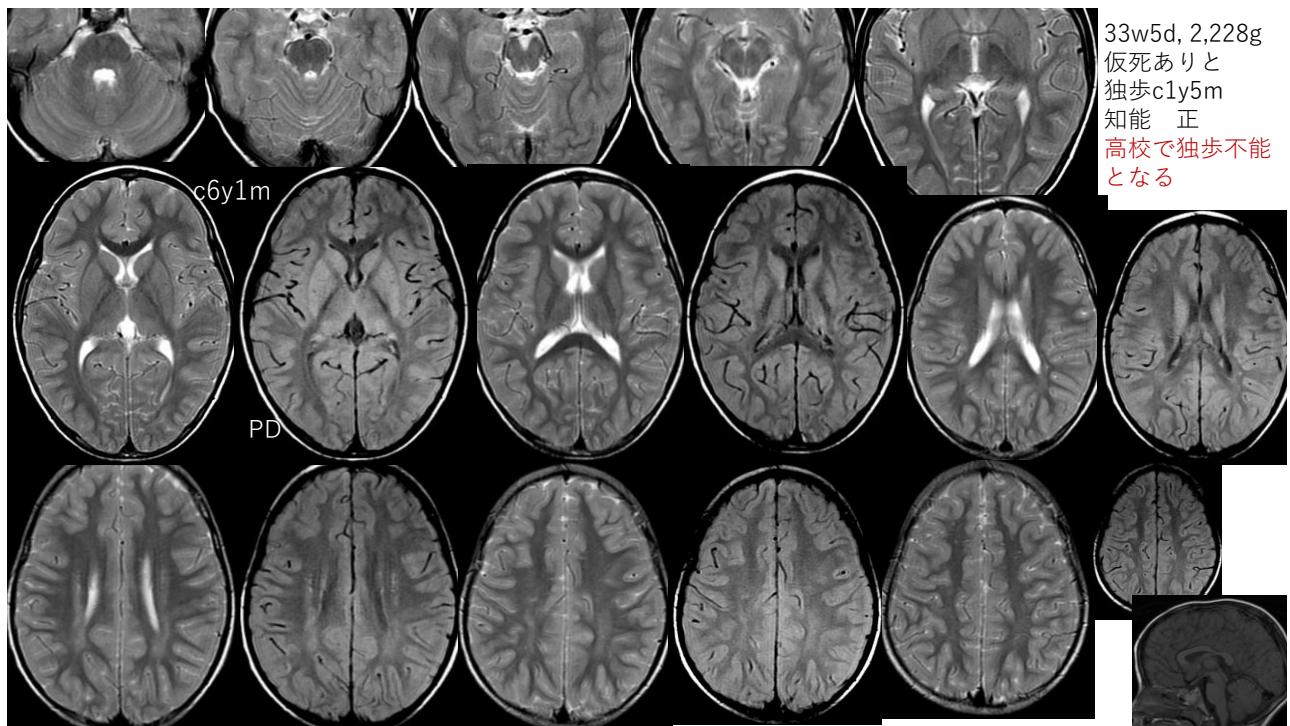


- 33w, MD twin 1子、入院時PVEあり
- 視覚：c4mでは盲、背這い±、定頸・寝返り:未
- 最重度知的障害

7



8



9



10

早産大脳白質性共収縮制御障害

- ・股屈曲位で固まる
- ・股膝過伸展足底屈位で固まる
- ・開口位で固まる
- ・頸後屈位で固まる
- ・肘は後方で固まる 手が前に出にくい
- ・肩回旋・上肢打ちつけ
- ・過開口でかたまる 緩徐・努力性発声

11

早産小脳障害例に見られる不随意運動（身ぶるい）

吉永治美, 他: 早産児にみられる小脳障害に伴う特異な不随意運動に関する検討. 脳と発達 44(3): 239-243, 2012.



- ・不随意運動の特徴
 - ・バタバタとした手足のバラバラな粗大運動
 - ・同一肢位を1秒間も保てない
- ・在胎23～27wの小脳障害例にみられる
- ・修正3～5mから出現
- ・乳児期後期消失～6歳で残存

12



・股屈曲内転・膝屈曲が優位 ・ピクピクは減る